

あさくち 議会だより

浅口から世界へ羽ばたく！

リオ・パラリンピック出場！

木山 由加 選手



No. 31

平成28年
9月定例会

平成28年10月1日発行

- ・大雨災害復旧に1億3,613万円 — 9月定例会 — … ②
- ・六条院幼稚園がこども園に …………… ③
- ・先進事例を学び市政へ生かす — 視察研修 — … ⑤
- ・3会派・7議員が登壇 市政を問う！ — 一般質問 — … ⑥

9月定例会は8月30日に招集され、9月15日までの17日間の会期で開催しました。

また、一般質問には代表質問3人、個人質問7人が登壇し、市政運営を質しました。

9月定例会

大雨災害復旧に1億3,613万円



大雨で崩落した土砂

補正予算

○**一般会計** 補正額3億4,654万円 補正後総額153億8,084万円(対前年同期比+5.0%)

歳出の主なもの

事業名	内容	補正額
大雨災害復旧事業	6月に発生した大雨災害による被災箇所の復旧	1億3,613万円
金光駅周辺整備事業	金光駅南口広場等の整備工事委託料など	4,455万円
三菱自動車地元協力会社支援事業	三菱自動車工業(株)の燃費不正問題により影響を受けている市内の協力会社を支援するため、軽自動車4台を公用車として購入	548万円
ふるさと納税事業	予想を超える寄附申し込みに対応するため、返礼品等の経費を追加	1,497万円
予防接種事業	10月から定期予防接種となるB型肝炎予防接種の経費を追加	180万円
財政調整基金等積立金	基金運用収入を財源として、基金への積み立てを行うもの	1億1,111万円

○特別会計

会計名	主な内容	補正額
介護保険	過年度歳入返還金の発生等によるもの	856万円
畑地かんがい給水事業	大雨災害による被災箇所の復旧	399万円

主な議案

条例

六条院幼稚園4月からこども園に

○認定こども園条例の一部改正

【原案可決】

平成29年4月から六条院幼稚園を幼
保連携型認定こども園「六条院こども
園」に移行。



六条院幼稚園

金光駅南口整備に向けて

○金光駅南口待合所条例の制定

【原案可決】

金光教から寄附を受けた建物を公の
施設に位置付けるもの。金光駅周辺整
備事業では金光駅南口の改札を常時使
用できるように改築する予定。

契約

工業団地造成工事費

7697万円を増額

○工事請負契約の変更

【原案可決】

契約金額を7697万円追加し、4
億8875万円とするもの。増額理由
は工事中に岩盤線が確認され、土砂や
岩の数量が増加し処分費や特殊工法が
必要になったことなど。

陳情

○教職員定数改善と義務教育費国庫負
担制度2分の1復元をはかるため
の、2017年度政府予算に係る意
見書採択の要請

【採択】

○議会運営委員の選任



大西恒夫委員

8月1日付で加
藤淳二委員が辞任
し、8月2日付で
大西恒夫委員が選
任されました。

決算認定は閉会中に審査

平成27年度決算認定10議案は、各常
任委員会で閉会中に審査し、12月定例
会で採決します。

議案に対する賛否

議案に対する各議員の賛否は次のとおりです。

【○】賛成、【×】賛成でない、【-】不参加、【欠】欠席

議案名	議員名	会派名		浅政会				経世懇話会				政和会		無党派			議決結果		
		中西 美治	平田 襄一	大西 洋平	田口 桂一郎	袖木 毅	原 彰	伊澤 幸久	竹本 恒天	青木 光朗	加藤 淳一	福田 玄	井上 邦男	藤澤 健	香取 良勝	桑野 和夫		岡邊 正継	佐藤 正人
発議第1号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元を求める意見書	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
承認第4号	専決処分した事件の承認(和解及び損害賠償額の決定)	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
議案第54号	金光駅南口待合所条例の制定	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第55号	認定こども園条例の一部改正	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第56号	工事請負契約の変更	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第57号	平成28年度一般会計補正予算(第2号)	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第58号	平成28年度介護保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第59号	平成28年度畑地かんがい給水事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	適任
陳情第8号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2017年度政府予算に係る意見書採択の要請	○	○	欠	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択

※議長は採決に加わりません。

重要施策を調査

委員会レポート

第2次浅口市

総合計画策定へ

総務文教 常任委員会

○8月9日

平成29年度から10年間のまちづくりの指針となる市の最上位計画

「第2次浅口市総合計画」の策定方針について報告を受けました。市民アンケートの結果やパブリックコメントを踏まえ、有識者、市民の代表等で構成する総合計画審議会で審議し、市長、幹部職員で構成する行政経営会議等で案を作成。平成29年3月定例会で議会の議決を経て制定する方針との報告を受けました。



第1次浅口市総合計画（後期計画）

問 総合計画の策定にいくらかかるのか。委託業者の選定方法は。

答 審議会委員報酬のほか、策定委託業務に約350万円かかる。選定はプロポーザル方式（注）で行い、4社中、1社が応じた。
注：金額だけでなく、優れた企画提案者を選定する方式

高齢者を支える

サポーターを養成

民生 常任委員会

○8月8日

高齢者が地域で安心して生活できる支え合い・助け合いのまちづくりのため、市は高齢者で要支援者、二次予防事業対象者の在宅生活支援のため、「生活支援サポーター」を養成します。サポーターはごみ出しや買い物、掃除などの約30分程度の支援を行い、ポイントに応じ交付金を受け取れます。【30分につき1ポイント（100円）】

問 サポーターの負担を少しでも軽減するため、金額を増やすよう検討しては。

答 サポーターはボランティアであり、当初によく検討し100円とした。しばらくは現行のとおりとし、時期を見て柔軟に検討したい。



みんなで支え合うまちづくり

金光駅周辺整備事業

内容が明らかに

産業建設 常任委員会

○8月10日

金光駅周辺整備事業の詳細設計についての報告を受けました。整備面積は約3500㎡、事業費は約12億円で、南口は自動改札の常設、待合所の設置、自動車が乗り入れるロータリーや一時停車場、駐輪場が整備される予定。北口は歩行者や自転車、自転車の動線を分ける整備を行う。工事は平成29年度から31年度中に南口、

その後北口を32年度末までに完了させたいとのことでした。

問 事業費が当初の6億円から12億円まで増額したが、経費はどこから捻出するか。

答 合併特例債を利用する。



金光駅南口の完成予想図

都市計画区域再編の

進捗状況は

都市計画調査 特別委員会

8月10日

執行部は

都市計画区域再編の必要性等について、国や県に市の考

え方に概ね理解いただいたと考えている。今後は人口減少等社会情勢の変化から土地利用方針の見直しが必要で

あり、客観的データを元に県等の同意が得られるよう具体的な土地利用規制の原案作成を進めるとのことでした。

問 都市計画区域の再編に向け、順調に進んでいるか。

答 昨年度示した調査研究に3年、手続きに2年要するとしたスケジュールで進んでいる。



都市計画区域の現状

学び・知り、市政へ活かす

視察研修

市民の意見取り入れ

観光・交流人口増

研修日

7月21日

～22日

研修先

○鳥根県

浜田市

浜田市で

は「元気な浜田をつくるためのロードマップ」事業に取り組み、交流人口増のため、観光資源の発掘や観光コースの企画など「おもてなしのまちづくり」を実施している。

問 市民の意見を織り込んだ観光モデルコースをどう活用するか。

答 市民から応募のあった広く知られていない「お宝」を「観光資源の原石」に磨き上げる。



先進事例を市政に

○鳥取県日南町

全国から農林業の就業希望者を募集し、農業研修生として受け入れている。研修生には手当の支給や住宅の斡旋、空き家改修支援などを実施している。

問 応募者数の実績は。定住率はいくらか。

答 当初は6名の募集に54名の応募があったが、年々減少傾向にある。定住率は6割程度。

市民に読まれる紙面を

広報 特別委員会

研修日

8月1日

～2日

研修先

○滋賀県

竜王町

竜王町議

会だよりは平成27年度全国町村議会広報コンクールで奨励賞を受賞している。読者の目線に立ち、読まれる紙面づくりをしている。

問 編集の際に特に気をつけていることや工夫点は。

答 文を短くすること、主語・述語をはっきりさせることで読みやすさを重視。イラスト・写真を多用し、専門用語は説明を付ける。

○京都府精華町

精華町議会では、議会の要望や意見がどのように市政に反映されたかを追跡調査したり、議会改革の内容を分かりやすく紹介するなど、画期的な企画を考案している。

問 一般質問の記事はどのように作成するか。

答 原稿の作成、写真、見出しは質問者本人が作成したものを、議事録と照合し、広報委員が修正する。



読みやすい見出し・レイアウト

視察の概要、参加委員の報告書は議会ホームページに掲載します。

一般質問

市政を問う!

議員が市政全般に関して、執行機関（市長や教育委員会）にその執行の状況や将来の方針、市民生活に係わる事項等について質問をすることを一般質問といいます。

9月定例会では3会派の代表、7人の議員が市政を質しました。

なお、会議録はホームページで閲覧できます。（9月定例会は11月中に掲載します。）

	質問者	質問項目	ページ
代表質問	浅政会 平田 襄二	○合併10年 新市の課題はどうか ○6月大雨災害の対応は	7
	経世懇話会 福田 玄	○第2次総合計画の策定方針は ○コミュニティ施策に人材支援制度を取り入れては ○ヘルプマーク・ヘルプカードの普及・啓発を	7
	政和会 井上 邦男	○行財政改革の取り組みは	8
個人質問	香取 良勝	○適正な受益者負担を求めるべきでは ○職員の能力に応じた登用と臨時職員の雇用期間延長を	8
	佐藤 正人	○介護保険制度改正への対応は ○浅口版地域包括ケアシステム構築を ○健康ポイント制度を導入しては	9
	柚木 毅	○天草池埋立て後の利用方法は ○市の防災対策は ○広報あさくちの内容充実を	9
	桑野 和夫	○病児保育の実施を ○6月大雨災害の復旧計画は ○後期高齢者の健診率の引き上げを ○介護保険制度改正によるサービス後退への対応は	10
	大西 恒夫	○マイナス金利 市への影響は ○ふるさと納税額の増加を目指せ ○星と海の町 海浜植物園を整備しては	10
	原 彰	○地方創生の進捗状況と今後の見通しは	11
	伊澤 誠	○防災基本条例制定と災害受援計画の策定を ○教育特区の設置で地域活性化を	11

市政を問う！



浅政会
平田 襄二

質問項目

- 合併10年新市の課題はどうなったか
- 6月大雨災害の対応は

都市計画再編を急げ

問 線引きの廃止など都市計画の再編まで4年かかるこのことだが、できるだけ短縮できないか。

答 本市が行う再編は、全国的にも稀なケース。これまで、国・県に市の考えについて、概ね理解を得た。今後は調査研究に2年、手続きに2年を想定している。できるだけ早期に実現したい。

常備消防の統一はどうやる

問 災害対策に重要な消防組織の事務の統一は、どうなっているか。

答 事務レベルで検討している段階。人口減少時代の中、広域的な視点で慎重に検討したい。

可燃ごみ処理施設の統一は

問 県策定の「新岡山県ごみ処理広域化計画」では、金光町分の可燃ごみも笠岡市等3市2町で構成する西部ブロックで処理する方向と聞くが、関係機関と協

議しているか。

答 焼却処理場の延命化工事により、平成36年度までは既存施設を使用。37年度からは3市2町の西部ブロックの新たな焼却場で処理する。

大雨災害への対応は

問 民有地も土砂災害の被害が出た。ブルーシートや土嚢等緊急対策資材を備蓄し市民に速やかに支給する体制を整えては。

答 緊急かつ応急措置に限り応急対策資材を支給している。自主防災組織用の資機材の補助制度もあるので活用してほしい。

問 民有地で災害復旧の補助対象となる案件はあったか。

答 被害報告件数183件のうち民有地は29件で、すべて現地確認した。農地災害の確認をしたが、以前より採択基準が厳しくなっており、補助要件を満たすものはなかった。



経世懇話会
福田 玄

質問項目

- 第2次総合計画の策定方針は
- コミュニティ施策に人材支援制度を取り入れては
- ヘルプマーク・ヘルプカードの普及・啓発を

第2次総合計画 市民参加型の策定を

問 第1次総合計画の自己評価は。次期計画の基本構想の大きな柱は。

答 評価は現在内部で取りまとめている。市民ニーズの高い政策に加え、浅口市の強みを生かし、少子高齢化を克服する取り組みを柱とした。

問 総合計画の内容をほとんどの市民が知らない状況。第1次計画の評価がないまま次の計画を作成するのはタイミングがずれている。計画期間を見直し、市民参加型の計画策定を検討しては。

答 多様化・複雑化する地域課題に対応するため、市民との連携協働は不可欠。市民の思いや希望を盛り込み、本年度末までに策定する。

コミュニティ施策に人材支援を

問 町内会加入率低下などが懸念

されるコミュニティ施策の今後の方向性は。地域おこし協力隊は地方創生分野での活躍が見込まれるが、今後の増員計画は。

答 平成31年度までに5地区の「協議会型住民自治組織」設立を目標に掲げ、積極的な住民自治組織づくりを支援していく。地域おこし協力隊員1名が積極的に活動し、効果を挙げている。中身を重視し、増員を検討したい。

ヘルプカードの普及啓発を

問 内部障害者、妊娠初期の方など、援助や配慮の必要が外見からわからない方が周囲に配慮の必要性を知らせる「ヘルプカード」の普及・啓発を行っては。

答 市民対象の研修会でPRをする予定。障害者の方々が安心して暮らせる社会になるよう、普及啓発に取り組んでいく。



政和会
井上 邦男

質問項目

- 行財政改革の取り組みは

浅口市の財政状況の分析は

問 市の財政状況をどのようにとらえているか。普通交付税が段階的に縮減されるが、自主財源の確保など、歳入増に向けてどう取り組むか。ふるさと納税に積極的に取り組むべきでは。

答 国が示す早期健全化基準を大幅に下回っているが、経常収支比率は85.4%と依然高水準であり、財政状況は硬直した状況にある。

企業誘致、定住促進による税収確保、公有財産の処分や有効活用の推進、有料広告の拡充に取り組む。地域の特産品の拡充と内容の充実でふるさと寄附金の増加を図りたい。

行財政改革に向けた市長の考えは

問 行財政改革推進懇談会が「使用料・手数料の見直し」「補助金の見直し」を答申したが、これまでの取り組みは。使用料・

手数料は受益者負担をよく考えるべき。

答 手数料は適正金額の精査を進め、住民票や所得証明書等交付手数料の改定を決定し、平成28年10月1日から施行する。

補助金等の見直しは、敬老会補助金、草刈り等の作業における借上料等の減額を実施している。

問 行財政改革に必要な市民の負担増については、その目的や成果について市民にわかりやすく説明し、理解を得る必要がある。行財政改革に対する市長の考えは。

答 行財政改革は市民に負担を強いるだけではなく、成果が市の発展、市民の幸せに寄与するものでなければならぬ。必要性や効果を丁寧に説明し、次世代の子どもたちに負担を先送りすることのないよう、持続可能なまちをつくりたい。



香取 良勝

質問項目

- 適正な受益者負担を求めるときは
- 職員の能力に応じた登用と臨時職員の雇用期間延長を

適正な受益者負担を求めよ

問 以前、市民有識者が結論を出した健康福祉センターのトレーニングルーム使用料の値上げ案を議会は否決した。それ以降、提案がない。毎日同じ人が施設を占拠し、利用者から苦情が出ており、使用料を徴収して欲しいとの声もある。岡山市や安来市を視察したがジムや風呂の使用料は410円から510円で多くの市民が利用していた。税の公平性からも受益者には負担を求めよ。

カラオケも無料で同じ人が使っている。使用料を徴収しては。

答 各施設の必要経費と受益者負担の割合を検討し、適正な使用料に見直しを行う。老人憩いの間は介護予防の観点から無料を継続したい。

職員のモラルは

問 金光総合支所長に危険箇所の

草刈を依頼したが、草が生えていないとの回答だった。産業建設部長に確認してもらおうと草が生い茂っていた。市長権限で悪い職員はやめさせるべき。

答 職員一人ひとりが市役所全体の窓口であることを意識し業務を遂行するよう、指導を徹底していく。

若くても能力ある職員を登用せよ

問 在職年数でなく、能力ある職員を昇格させるべきでは。臨時職員を1年で解雇するのはなぜか。正職員より仕事のできる臨時職員もおり、継続して雇用すべき。

答 職員の能力の実証に基づいた任用を行い、住民サービス向上につなげる。

補助的業務にあたる臨時職員の任用は地方公務員法に基づき最長1年。専門的業務にあたる非常勤職員とは異なるので理解して欲しい。

市政を問う！



佐藤 正人

質問項目

- 介護保険制度改正への対応は
- 浅口版地域包括ケアシステム構築を
- 健康ポイント制度を導入しては

介護サービスの縮減はあるか

問 来年4月から要介護度の軽い方の介護保険サービスが、全国一律のものから市が行う地域支援事業に移行されるが改正の内容は。本市への影響はどうか。

答 要支援1、2の方が利用している訪問介護と通所介護が市の事業となる。新たに事業所の人員基準等を緩和してサービスをを行うなど多様に検討している。利用者の自立を目指し、生きがいをもって生活できるよう支援していく。

高齢者が安心して暮らせる地域社会づくりを

問 高齢者世帯、独居世帯、認知症の人が増えていくが、本市の今後の予測は。

答 団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者になる10年後には、後期高齢者の割合が高齢者人口の6割以上となる。高齢者

人口に変化はないが、後期高齢者が多くなると認知症の方の増加が予測される。

問 医療と介護の一体的な連携が必要となるが対策は。

答 井笠地域の医療、介護事業所で個人情報共有するネットワークができ、また市では医療介護に関わる方で構成する地域ケア推進会議で問題解決の協議をしている。

市民の健康づくりの動機づけに

問 市民の主體的な健康づくりのため、生活改善や健康診断の受診、スポーツ教室への参加等健康づくりメニューを行ったポイントを集めて特典がもらえる「健康ポイント制度」を導入しては。

答 健診の受診率アップや医療費の削減にもつながるので導入を前向きに検討したい。



柚木 毅

質問項目

- 天草池埋立て後の利用方法は
- 市の防災対策は
- 広報あさくちの内容充実を

天草池埋立て後の利用はどうする

問 現在、天草池の埋立てが行われているが、その後の利用はどうするか。

答 受益地が減少し、関係者の理解を得て3分の1を埋め立てる。埋立地の利用を目的とした開発ではないため利用方法については未定。

大規模災害発生時への対策は

問 浅口市内の住宅の耐震化率は。福祉避難所をどこが担い、介助者の確保はできるのか。

答 耐震化率は約64%と推計している。

福祉避難所は健康福祉センターをはじめ協定を結んだ特別養護老人ホームなど、合計8箇所となっている。受入可能人数はあわせて585人であり、それぞれの施設で受入可能人数に対する支援職員の数は足りていない。被害が甚大な場合は必要な

要員の確保など他市町村、県に支援を要請し、安全確保に努めたい。

問 大規模災害発生時に応急対応に人手がとられ、市役所業務が停止してしまう恐れがある。それに対処する「業務継続計画」の策定ができているか。

答 一部の内容は、地域防災計画などに盛り込まれているが、全庁的な業務継続計画は策定していない。今後は全庁的な業務継続計画の内容を固めるべく、研究・検討を進めていきたい。

広報あさくちの内容充実を

問 安心・安全のページを設け、防災啓発を定期的に行うことは。

答 紙面の制限もあるので、特集記事など掲載量を増やすことは調整し、安心・安全ひとくちメモのコーナーの継続と、更なる内容の充実に向け啓発活動に取り組みたい。



桑野 和夫

質問項目

- 病児保育の実施を
- 6月大雨災害の復旧計画は
- 後期高齢者の健診率の引き上げを
- 介護保険制度改正によるサービス後退への対応は

及しており、現行の制度の範囲内としたい。

ふるさと納税額を増やせ



大西 恒夫

質問項目

- マイナス金利市への影響は
- ふるさと納税額の増加を目指せ
- 星と海の町海浜植物園を整備しては

花卉や天文台のPR商品を増やしては。例えば3.8m望遠鏡にちなみ、3.8mのせんべいを作り面積が1万倍で「まんべい」と名づけてはどうか。

病児保育の実施を求める

問 これまで病児保育の実施を求めてきたが、進捗状況は。県の補助制度を活用し実施できないか。

答 高梁川流域自治体連携事業で広域化の実施協議を行うこととしていたが、具体的な取り組みには至っていない。病児保育の広域利用体制を整えたいとの県の意向があり、近隣市町と協力し、検討したい。

災害見舞金制度の創設を

問 6月大雨災害で笠岡市は民地にも基準を設け補助するが、浅口市はどうなのか。災害多発時代を受け、災害見舞金制度を新設しては。

答 笠岡市ほどの被害はなく補助制度は設けていない。現在「災害弔慰金」、「災害障害見舞金」、「災害援護資金」の制度がある。民間の保険による補償制度も普

後期高齢者の健診率の引き上げを

問 後期高齢者の健診率が浅口市では平成26年度で25%と県下最下位となっているが原因は。

答 後期高齢者の健診は努力義務で、浅口市では医療機関を受診し糖尿病等の治療を行っている方は対象としていない。通院者の把握が困難なため、被保険者全体を対象としており、受診率が低くなった。受診案内は前年の受診者で定期的に通院されていない方と新たに75歳になられた方に通知している。

問 75歳以上の方全員に健康診断の受診の通知をして受診率を引き上げるべきでは。受診するか

答 どうかは受診者が判断することではないか。市長の考えは。健診を受けるよう市民に呼びかけていく。

問 企業版ふるさと納税は検討したか。子どもたちからアイデアを出してもらい、それを応援する寄附項目をつくっては。

答 企業から寄附を受けるには、地域再生計画を策定し、国の認定を受けることが条件。企業にとって魅力ある創生事業を目指し、計画策定を進めたい。中学生に実施したアンケートにあった項目も検討し、大切にしていきたい。

問 これまでの寄附の使い道について個別に公表しているか。寄附してくださる方に使いみちを公表する責任があるのではないかと。

答 募集したらうちの分野全体でいただいた合計額を公表している。個別の公表は検討中で現在は対応できていない。

問 増額できれば交付税減額分を補填できる。返礼品に阿部山の

海の町としてのイメージアップを

問 海のまちとしてスケールアップする必要はある。昔は干潟やアマモがあったが整備しては。塩田の歴史的な遺産があったかどうか考えるか。アッケシソウを中心

に海浜植物園を整備しては。県や漁協と協力し、漁業資源確保等の施策に積極的に取り組む。産業文化の歴史を後世に伝えることは大切。アッケシソウ自生地周辺は大半が国有地で海岸保全地域であることから大規模な開発はできない。

市政を問う！



原 彰

質問項目

- 地方創生の進捗状況と今後の見通しは

地方創生で浅口市を元気に

問 少子高齢化、人口減少社会等、地方の衰退が強調され、全国896自治体が消滅するとして報告もあった。本市の地方創生の進捗と事業等、今後の見通しは。

答 昨年10月策定の総合戦略で4つの基本目標（雇用の創出、移住・定住の促進、結婚・妊娠・出産・子育ての支援、時代に即した地域づくり）を掲げ、人口減少対策を進めている。

市民と共に乗り越えるため、市民協働の推進と地域自治機能の向上を図っていく。

問 倉敷市を中心とした高梁川流域圏構想を現実的なものにするための取り組みは。

答 平成27年3月から高梁川流域圏7市3町と共に連携事業を実施している。昨年度は経済施策の立案の検討、社会教育施設の小学生の入館料免除等を実施した。本市は京都大学新天文台を

活用し観光面での連携に力を入れたい。市の地域資源に磨きをかけてまちの魅力を高め、周辺地域の中で存在感をもって発展できるように積極的に参画していく。

問 円高、株安の状態がほぼ定着し、設備投資意欲の少ない状態が続いている。企業誘致は難しくなると思うが、考えは。

答 26年度から今年度までの短期間で複数の企業が決定した。「温暖で災害が少ない」、「交通の便が良い」、「雇用の確保をしやすい」という3つの利は間違いないと改めて認識している。今後、も民有地の活用や工業団地II期以降の検討も視野に入れ、トップセールスで足を運び、汗をかいて企業誘致を進めたい。



伊澤 誠

質問項目

- 防災基本条例制定と災害受援計画の策定を
- 教育特区の設置で地域活性化を

防災基本条例の制定を

問 市民の防災意識啓発をどのようにしているか。自主防災組織の結成状況は。活動状況の把握はしているか。

答 広報紙等での広報やハザードマップの配布、出前講座の実施など多岐にわたり啓発に努めている。46団体の自主防災組織が結成されており、活動補助金申請時や出前講座の相談、訓練の場等あらゆる機会に声かけをし、内容把握に努めている。

問 自助・共助の重要性や各種計画を盛り込んだ「防災基本条例」を市民を巻き込み策定しては。ボランティアや支援物資を効果的に受け入れるための「災害受援計画」の策定が必要では。

答 重要な課題と認識し研究したい。まずは、防災実務の強化に向けた取り組みを県や他市町村とも連携しながら行っていく。

浅口市に教育特区の設置を

問 総社市の一部地域では幼小中学校一貫英語教育を提供する「英語特区」を導入し、学区外の子どもたちも受け入れ、地域活性化につなげている。本市でも英会話教育や環境教育実践など、特色ある課題研究をテーマにした教育特区を設置し、定住促進等につなげられないか。

答 浅口市の英語教育は一部の地区だけでなく全市一律で力を入れており、小学校5・6年の外国語授業を4年生にまで広げているほか、1年から3年にも英語を取り入れ、幼稚園・保育園等にも外国語指導助手（ALT）を派遣しており、特区は考えていない。

しっかりと情報発信し、定住促進につなげたい。



木山由加選手 感動をありがとう！



リオ・パラリンピックで力走！ 100m・400mで4位入賞

9月7日に開幕したリオデジャネイロ・パラリンピックに浅口市在住の木山由加さん（エイベックスグループHD）が陸上車いす競技に出場しました。浅口市初のパラリンピック選手となります。

木山さんは新見市出身で、15歳でロードレース大会に初出場し、18歳から本格的に競技を始められました。

昨年5月に浅口市へ移住され、県内の競技場で練習に励んでこられました。

パラリンピック出場はロンドン大会に引き続き2大会連続の出場で、100m・400m（車いすT52）の2種目に出場しました。



市役所に掲げられた懸垂幕



猛暑の中、練習に励む木山選手

大会では、大観衆の中、力いっぱいの方走で健闘され100m・400mの両種目で4位入賞を果たしました。

〔結果〕

陸上100m（車いすT52）

4位入賞 24秒44

陸上400m（車いすT52）

4位入賞 1分21秒87

4年後の東京パラリンピックに向け、今後もご活躍を期待していきます。

傍聴にお越しく下さい！

傍聴は議会活動に直接触れることのできるもっとも身近な方法です。

議員の活動や市政の方針が決まるまでの過程を、ぜひ直接ご覧下さい。

次回12月定例会は、11月29日に開催する予定です。日程の詳細は議会運営委員会が11月下旬に決定されます。ホームページ等でご確認ください。



ご意見・ご感想を
お聞かせください

広報特別委員会では、読みやすく親しみやすい広報づくりに取り組んでいます。市民の皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

あて先
浅口市議会事務局
TEL 44-7010
FAX 44-7009
e-mail:
gikai@city.asakuchi.lg.jp

声の議会だより

目の不自由な方にも議会の内容をお知らせするため、浅口はるか会のご協力により議会だよりを音読しています。

広報特別委員会

委員長 平田襄二
副委員長 伊澤 誠
委員 福田 玄 佐藤正人
桑野和夫 中西美治
大西恒夫 大西洋平



議会だよりは再生紙を使用しています

